

令和6年度学校評価総括表から

西尾市立寺津中学校

【全般】

1 指導方針の周知

「とても思う」「思う」と回答した生徒90.2%、教職員82.4%に対し、保護者は、71.5%となった。保護者には十分に伝わっていない事実を受け止め、日々の授業や体育大会や文化の集いなどの行事において具体的に伝えたり、わかりやすい学年便りや学級通信の作成を心がけたりして、保護者の「とても思う」「思う」が100%になることを目指していく。

【学習指導】

2 自己評価力の育成

各教員は授業の最後に、振り返りを書く時間を設定しているので、生徒の「とても思う」「思う」が昨年度の76.9%から80.5%と増加し、成果が出ている。保護者の「とても思う」「思う」が、昨年度の74.2%から76.4%の微増にとどまっていることや、教員の意識が薄くなっていることを含め、指導と評価の一体化を常に図り、保護者へも具体的な取り組みについて伝えていく必要がある。

3 自己教育力の育成

生徒のやる気を引き出すために、タブレットを活用したり、朝の学習や読書の時間を設定したりと、生徒が自ら学ぶための工夫をしている。生徒の「とても思う」「思う」が、昨年度の70.4%から73.6%に増加している。今年度、教職員が生徒の実態に応じた指導に取り組んでいることが成果として表れている。今後は、子どもが主体的に学びに向かう授業づくりを工夫していきたい。

4 自己表現力の育成

教職員は意見発表会の機会を設け、自分の意見や思いを伝える場面を設定している。生徒の「思わない」の回答が、昨年度の7.2%から2.9%と下がっているのは、その成果と言える。一方で「とても思う」と回答する生徒が11.2%と少なかったため、今後は、生徒が意見を発表したいと思えるような授業づくりをしていきたい。

【生徒指導】

5 地域社会の一員としての自覚

「とても思う」「思う」と回答した教職員が、本年度88.2%、生徒は84.9%となった。6月の学校評議員会では、登下校時の生徒の挨拶がよいことや、きちんとマナーを守って、地域の神社等で安全に遊んでいるとご意見をいただいた。7月の清掃ボランティアや8月のふれあい盆踊りでのソーラン節の披露等を通して、地域社会の一員としての自覚が高まっている。今後も生徒と地域のつながりを充実させる活動を行っていく。

6 相談体制の充実

教職員は、継続して相談しやすい雰囲気を作ってきたことが、保護者の「とても思う」「思う」の回答が85.4%と高い状態にあり、生徒の回答も昨年度の65.1%から69.2%に増加したことにつながった。今後は、「あまり思わない」「思わない」と答えた30.8%の生徒の内面をとらえるために、すべての教職員で生徒をよく見ていき、必要に応じてSCやSSWに協力を得ながら、相談しやすい雰囲気づくりを心がけていく。

7 積極的な生徒指導の推進

教職員は、生徒が前向きに安心して学校生活を送ることができるように努力していることが伺える。生徒の「とても思う」「思う」の回答が昨年度より下がっているが、86.3%と高い水準を維持している。これは、生徒会活動や委員会活動の様々な企画へ意欲的に参加している姿と重なる。今後は学校行事等の中で、生徒の人間関係づくりの土台をつくったり、生徒が自主的に活動できる場を生徒自らがつくったりすることができるようにしていく。

8 よりよい人間関係づくりの確立

道徳や生徒会活動、学級経営の中で、思いやりなど周囲の人の心を考えた言動を学ぶ機会を取り入れている。生徒の「とても思う」「思う」の回答は94.1%となっているのは、その成果が表れていると言える。今後は「あまり思わない」「思わない」と答えた生徒5.9%や保護者13.9%を注視し、温かいコミュニケーションが図れる工夫をする必要がある。

【保健・安全指導】

9 基本的な生活習慣の確立

生徒の「とても思う」「思う」の回答は、昨年度の84.2%から79%と減少している一方で、保護者の「とても思う」「思う」の回答は、昨年度の72.8%から77.6%と増加している。SNSの使い過ぎにより、生活が乱れがちな生徒もいるため、生徒との面談やライフ（生活記録）を通じて、個別指導をしながら、保護者にも協力を得て、生活習慣の確立を支援していく。

10 健全な食生活の確立

保護者・生徒・教職員の「とても思う」の回答が昨年度より増加している。昨年度から、調理員さんへお礼のメッセージやクイズなどをつくったり、調理員さんの仕事の様子をビデオ放送で流したりするなど、食を意識するよい交流が生まれてきている。ここからさらに、家庭の食育へつながる活動へと広げていき、基本的な生活習慣とともに、健全な食生活が確立できるように支援していく。

11 危機管理意識の高揚

毎年、1年生を中心に総合的な学習の時間の中で、「守られる中学生から守る中学生」という意識の転換を目標に防災教育を実施している。生徒の「とても思う」「思う」の回答が昨年度の85.5%から86.3%と微増した。町内会を中心とした地域の方と連携して行っている1年生の「防災フェスタ」の成果が少しずつ表れてきている。今後は、教職員の危機管理意識を高めるとともに、学校安全についての生徒の意識啓発を行っていく必要がある。

12 交通事故の防止

全校生徒の自転車通学を許可から2年が経った。生徒の「とても思う」の回答が、昨年度の62.5%から本年度は72.2%へと増加した。年度の途中で、生徒から交通安全に対する意識が低下しているとの声があがり、生活委員会を中心に、交通安全に対する意識を高める放送や呼びかけを行った。今後も交通ルールを守って登下校ができるように、継続して地道に指導していくとともに、生徒主体で行動できるように工夫していく。